



2012～2013 年度
国際ロータリー会長

田 中 作 次

Weekly Report Niigata



2012～2013 年度
新潟ロータリー会長

下 岡 正 八



奉仕を通じて 平和を

2012～13 年度 国際ロータリーのテーマ

新潟 RC 12 月第3例会 (2012.12.18) No.2973

(1) ロータリーソング「我等の生業」斉唱

(2) 下岡 正八会長挨拶

前回の補足

実物のリンゴとバナナを見ると皆同じ様に瞬時に、部屋の白のテーブルクロスの上のカゴに入っていると認知できます。その上、果実の形、大小、方向(上下)色、香り、おいしそう、食べ頃、腐っているなど、さらに慣れた人は、産地(長野)名前(フジ)まで判断します。これが暗黙知・不変項という専門用語なのです。一般的には、常識として処理されます。しかし言葉のみですと、実物を見て感じたようなさまざまなことは、瞬時にはほとんど無いかあっても皆同じ様にということはありません。

リンゴとバナナといった低次元のものですら実物に対する気付きは多く、これが高次になると一般の人は実物を前にしても、ほとんど思いつくことはありません。

我国は、テスト中心の教育状況の中で言語情報のみが丸暗記されることにより、非言語情報と結びつかなくなるため、それらの言語知識は実際社会では何の役にたたなくなっているのです。

勘違いしているのは、言語を用いた知識は学習によって獲得した学力のことで、能力ではありません。学問の世界では便宜上、いくつ覚えていくつ忘れたかというように、数字で示せるようなきわめて単純な記憶を研究対象としてきたという事情があり、そのことが現在では、知識がある人は頭が良いと短絡的に普遍的なものと結びつけられているのです。

今ひとつの勘違いは、知識は結果や成果を現します。それには、過程プロセスがあります。経験と同様これは説明の難しいクオリアです。

人の行動と同様、一連の動作の結果、達成されたことのみ注意到向くが、このプロセスも成長の過程で獲得されてきたものだということを忘れ去られて我々の行動理解が不十分なままなのです。

つまりこどもの発達もピアジュ以来、発達は漸進的過程だという考え方が長くありました。その結果、一連の過程がスナップ写真のように、すこしずつ成長が積み重なると、一

般に考えられてしまったのです。本来は、目標を立ててもそのプロセスの目的は、結果ではなく単なる産物でしかないのです。

(3) 次年度地区役員委嘱状伝達

- ・高橋 清文君 ローターアクト委員会委員
- ・宇尾野 隆君 米山奨学委員会 寄付推進委員会委員長

(4) 委員会報告

・小田等社会奉仕副委員長

本日、例会終ロータリー保育園を訪問致します。参加予定者は、会長、幹事、得永大委員長、細野さん、本間さん、加島さん、鈴木さん、高橋 秀樹さん、私です。

・塚田 正幸RA委員長

ローターアクト委員会半期活動報告

今年度ローターアクトクラブ(RAC)はRC 会員企業の協力を得て6名の新入会員が入会して12名(男性7名、女性5名)となりました。皆ロータリークラブやローターアクトクラブの事をよく知らないの、各々基本的な知識を折に触れ伝えている。例会は月に2回、第一火曜、第三火曜夜7時より。会場イタリア軒。9月から毎月第二例会はRAC 会員が仕事では滅多に出会えない方々を講師として招き、講演していただいて知識を深めている。更に会社は違うが年齢が近いアクト会員同士で交流を深めている。また他のローターアクトクラブとの交流も継続している。

9月第二例会 新潟大学医歯学総合研究科

高橋 昌准教授(DMAT 隊長)

10月第二例会 絵本作家 エイキミナコ

11月第二例会 米山奨学生(新潟大学大学院) 張 文婷

更にアクト会員拡大のためロータリアンの皆さんの協力をお願いします。

(5) 各種ご寄付の発表

米山奨学会寄付発表(徳永 昭輝委員長)

竹石 松次君 後藤 司郎君

徳山 啓聖君 宇尾野 隆君

(6) ニコニコボックス紹介 (横山 芳郎委員)

- ・岡村 健吉君 ハワイアンブラの松井ひろみさんをおむかえしてニコニコです。
- ・田中堅一郎君 昨晚、商工クラブの年忘れ忘年会の福引で理事長賞を当てました。(はじめて当たりました。)
- ・徳永 昭輝君 BSN創立60周年記念小林幸子ディナーショーで小林幸子さんと握手、感激です。
- ・西原 譲一君 NHK歳末たすけあいに会員皆様のやさしさをいただきました。心より感謝いたします。
- ・内山 清君 このたびは大変お世話になりました。ありがとうございました。

(7) 卓話「フラダンスの魅力について」

Hui O Kealo Puakea Hula Studio 主宰
松井 宏美 氏



(8) 本日の出席率 70.93 %
(2週間前メイク後 91.77 %)

家族月間に因むコラム

親睦委員長 金親顯男

「家族の形態」

核家族という言葉が、常態化して久しい。この言葉は、米国の人類学者が家族の形態のひとつとして、拡大家族、大家族、複合家族と対をなす表現として使い始めたとある。

「Nuclear Family」和訳で、「核の家族」。Nuclear は、本来、果物の芯、すなわち核を意味するとあるが、第二次大戦後、アメリカが、ビキニ環礁で核実験を行った1946年頃から使われはじめた事と、日本では、高度経済成長期、人口が都市部に大量に移動し、家族の形態が急激に変化した社会現象を指して、「核家族化」という言葉が使われ、1963年の流行語になった。

以来、国勢調査で、核家族世帯という項目が常設されるようになった。

それによると、核家族世帯は、次の3種類に分類される。

- ① 夫婦のみ
- ② 夫婦と子供
- ③ 父親または母親とその未婚の子女

そこで、過去との比較を数字で見ると、総世帯数に占める核家族の割合は、経済成長著しい1975年頃、その比率はピークとなり65%、その後1990年が約60%、そして最新の2012年の調査では、56%に減少してきている。

実数で2920万世帯である。

それでは、所謂3世代以上も含む大家族等の核家族以外の世帯が増えているのかというとそうではない。この層も20年前に比べ、75%170万世帯も減っている。逆に増えたのは、1人住みの単独世帯で、178%730万世帯も増え、1678万世帯を数える。調査項目では、核家族には入らないが、この数字を合計すると、なんと総世帯数の89%、4600万世帯になる。少子高齢化の流れは、ますます孤独な家族を増幅する。

12月25日の例会予定

卓話「グローバル化社会と日本企業」

新潟大学大学院技術経営研究科 特任教授 田中亨氏

新潟ロータリークラブ会員専用ホームページアドレス

<http://www.niigataarc.jp/member/>

会員専用ページログイン情報

ユーザーID niigata

パスワード rcrarc